

～小中一貫教育のさらなる発展をめざして～

はじめに

河合小中学校において、小5～中1の成長に焦点をあてた5・4制の「河合型小中一貫教育」が始まって8年目を迎えました。小野市の教育理念「超スマート社会を豊かに生きる力を育む、自立して未来をひらく人づくり」に基づき、学校教育目標「他者と共創し、主体的に学ぶ児童生徒の育成」をより深化・充実させているところです。

デジタル社会やAIが台頭していく時代の中で、児童生徒は、小中学校や学年を越えて、「主体性」「かかわり」をより意識し、日々の授業・生活・行事に取り組んでいます。また、目標やねらいに迫るために試行錯誤を繰り返し、共にたくましく成長しています。さらに、児童生徒・保護者・地域・教職員が「つながり」を大切にすることで、互いの存在や努力を認め、様々な意見を受け入れる温かい学校文化・土壌を育んでいきたいと考えます。

今後とも、保護者様や地域の皆様の温かいご支援やご協力をお願いし、本年度の取り組みを紹介します。

1 授業づくり

5年前から「未来を切り拓く協働的で探究的な学びの創造～教師の思いを起点とした授業づくりを通して～」を研究主題として小中合同で研究授業を進めています。小中全職員が集まり、この研究の意義や目指すものについて確認し合うことができました。児童生徒と教師が「主体－主体」の関係になって学ぶ授業を目指して、小中合同のグループを作り、教職員全員が研究授業を行いました。

2年生の図工の授業では、新聞紙という身近な素材を使って、イメージしたものを形にしたり、活動する中で膨らんだイメージを実現させたりしながら、生き生きと活動することを起点に進めました。丸めたり破ったりしやすい新聞紙で、自分がイメージしたものを作ったり、友達とグループになって大きなものを作ったりし、造形活動に夢中になっていました。その中で、「いっしょにしよう。」「こうした方がもっとよくなるよ。」など友達同士での温かい声かけが聞かれました。自由な発想を形にする喜びや協力して作り上げる楽しさに夢中になり、生き生きとした活動となりました。

8年生の保健体育の授業では、バスケットボールの単元で、得点することに特化して授業づくりを行いました。この単元は毎年あるのですが、授業者は前年度までの生徒の様子を見て、試合中得点が決まらないことに注目して、授業を組み立てました。ゴールの近くでボールを持っても冷静にシュートできない状況をふまえて、攻撃3人に対して守備1人という変則ゲームを行いました。得点する機会が増え、自分がシュートを決めやすいところで打つこともできるようになりました。そして、全員が得点する喜びを感じ、積極的にボールに関わろうとする姿勢を育てることができました。

これらの授業以外にも、授業者は「この単元を通して、子どもたちにどんな力をつけさせたいのか。子どもたちがどんな学びをするのか。」ということを考えて授業づくりをしています。授業者がどんな切り口で単元をとらえて授業をするのか、その問いの答えになかなかたどりつけず、悩むこともしばしばあります。そして、授業後にはグループで事後研修を行い、授業だけでなく単元の見直し、児童生徒にどのように変容があったのかを討議します。教師一人ひとりがこの研修をきっかけに自分の授業を振り返る機会にし、これからの授業づくりに生かしていきたいと思えます。

